

日本語会話における「からかい」の様相：「遊び」 としての「からかい」の相互行為分析

呉, 青青

<https://hdl.handle.net/2324/4110419>

出版情報：Kyushu University, 2020, 博士（学術）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

氏名	呉 青青 (ご せいせい)			
論文名	日本語会話における「からかい」の様相 —「遊び」としての「からかい」の相互行為分析—			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	井上 奈良彦
	副査	九州大学	名誉教授	松村 瑞子
	副査	九州大学	教授	山村 ひろみ
	副査	九州大学	准教授	杉山 あかし
	副査	九州大学	准教授	横森 大輔

論文審査の結果の要旨

「からかい」は、我々のコミュニケーション活動において、重要な役割を果たしている。「からかい」が持つ役割が明らかになりつつある一方で、「からかい」を行う方法や手続きに関する研究は少ない。本論文で申請者は、「からかい」の様相を明らかにするために、実際の日本語会話で生じている「からかい」を、相互行為分析の方法論に基づいて分析した。

本論文は、全7章で構成されている。

第1章で申請者は、まず、「からかい」を定義した後、先行研究を概観し、相互行為分析で「からかい」に取り組む利点を述べた。次に、本論文が取り組む課題を提示し、論文の構成を示した。

第2章では、相互行為分析の中心にある会話分析の方法論と、発話と共起する非言語行動を中心に扱うマルチモダリティと会話の参与枠組みについて説明した後、本論文で使用するデータの概要について述べた。

第3章では、「遊び」の研究で注目されている、笑いながら他者の発話を繰り返すという発話、に注目して分析を行った。具体的には、現在の話題が真剣に進められているという文脈で、話者Aに「遊戯要素」が含まれている発話が産出されたとき、話者Bは笑いながらその「遊戯要素」を繰り返すことで何を達成しているのか、についての分析を行った。即ち、繰り返された要素は、A（からかわれる側）にとっては「目立たない」「普通の」ものであるが、B（からかう側）は敢えてその要素を「逸脱した」ものとして捉えて繰り返すことで、その「逸脱性」を焦点化して相手をからかっていることを、相互行為的に分析することで明らかにした。

第4章では、「からかい」が行われる前の段階で産出されている「ん?」「え?」「なに?」などの無限定の質問に着目した。相互行為の参与者が「からかい」を行う前に「ん?」「え?」「なに?」などの発話を産出することで、具体的にどのような内容の「準備」を行なっているのか、そして、次の段階で参与者がいかにして相手をからかっているのか、を分析した。その結果、第3章と同様に、これらの質問を行う参与者は、トラブル源との距離や顔の表情などを利用して、直面しているのが聞き取りの問題ではなく発話の容認性の問題、すなわち、「何らかの規範からの逸脱」であることを焦点化していた。この「準備」の後に、この「逸脱」をターゲットにし、相手をからかう、ということがわかった。

第5章では、「からかい」の協同構築で、「観衆」がどのような振る舞いをしているのかについて、2種類の事例分析を行った。1つは、「観衆」がからかう側のスタンスに寄り添いつつ、からかう側

と協同して「からかい」を構築する事例であった。もう 1 つは、「観衆」がからかう側のスタンスには寄り添わない態度を示すものであった。この場合、自分の振る舞いがからかう側に利用され、結果的に、「からかい」の協同構築をしている事例もあった。「観衆」は、異なる連鎖環境において様々な振る舞いをしているが、いかに中立的なスタンスを取るのかという課題に常に直面している、ということがわかった。

第 6 章で申請者は 3 章から 5 章までの分析を踏まえて、「遊び」としての「からかい」の相互行為的特徴を考察した。その結果、「遊び」としての「からかい」には 2 つの相互行為的特徴、即ち、他者の発話の繰り返しが数多く利用されるという特徴と、からかう側が積極的にその場にいる参加者を「遊び」に巻き込むという特徴があることが明らかになった。

第 7 章で申請者は、3 章から 6 章で述べた分析結果をまとめた上で、本論文の研究意義について述べた。

まず、本論文によって「からかい」を達成するために参加者に利用される手続き（たとえば、笑いながらの繰り返し、無限定の質問から開始される修復、「観衆」との協力など）が明らかになったという点は、会話分析という研究分野に貢献できる。次に、本論文では、従来の「からかい」研究では十分に考察されていない「観衆」の役割を明らかにすることができた。この点は、今後の「からかい」研究に貢献することできると期待される。最後に、本論文で明らかになった「からかい」の連鎖構造の特徴は、日本語教育に援用することができる。

以上により、論文調査委員会は、本論文を博士（学術）の学位論文として十分に評価できる論文であると判断した。